

富山県高P連会報

第 118 号
2018.2

編集発行

富山県高等学校PTA連合会
発行人 会長 石坂兼人
富山市千歳町1-5-1
富山県教育記念館41号
TEL 076(432)2810
FAX 076(432)1501

平成29年度富山県高等学校PTA 大会・指導者研修会が10月24日、ホ テルグランテラス富山で開催されま した。

平成29年度富山県高等学校PTA
大会・指導者研修会が10月24日、ホ
テルグランテラス富山で開催されま
した。

開会式では、
金田栄悟副会長の
開会のことば
の後、石坂兼人
会長から、本大
会・研修会につ
いて「高校時代
のPTA活動は、
3年間という限られた時間なので硬
直化、形骸化が危惧される。本日の
発表・講演会等ではいろいろな気づき
や学びを得て、今後の各単Pの活動
実践につなげてほしい。」との挨拶
がありました。



続いて、渋谷克人県教育委員会教
育長より、「今日、少子高齢化、グロー
バル化、価値観の多様化など、教育
を取り巻く環境が大きく変化する中
で、学校や家庭、地域社会において
多くの課題が生じております。こう
した中、皆様には、「イレブン・セ
ブン運動」を始め、高校生のための

主権者読本の配布など、様々なPT A活動に積極的に取り組んでいただ いております。また、各学校では、 「さわやか運動」や「特色あるPT A活動」として、PTA進路研修会、 親子交流会、PTA通信の編集等で、 多くの保護者の方々に参加いただき 子どもたちの規範意識や職業観の形 成、PTA活動の活性化等にご貢献 いただいております。子どもたちの 健やかな成長には、学校、家庭、地 域が連携して取り組むことが重要で ありますので、皆様のご協力に対し まして改めて感謝を申しあげる次第 であります。

主権者読本の配布など、様々なPT
A活動に積極的に取り組んでいただ
いております。また、各学校では、
「さわやか運動」や「特色あるPT
A活動」として、PTA進路研修会、
親子交流会、PTA通信の編集等で、
多くの保護者の方々に参加いただき
子どもたちの規範意識や職業観の形
成、PTA活動の活性化等にご貢献
いただいております。子どもたちの
健やかな成長には、学校、家庭、地
域が連携して取り組むことが重要で
ありますので、皆様のご協力に対し
まして改めて感謝を申しあげる次第
であります。

本日の大会が有意義な研修となり
ますようお願いいたしますとともに、
皆様には、子どもたちの健やかな成
長と高等学校教育の振興に、今後と
もご支援を賜りますようお願いを申
しあげます。」との祝辞をいただき
ました。

開会式に引き続き、「活力あるP
TA活動を目指して」をメインテー
マに、4校のPTAから研究発表が
ありました。

開会式に引き続き、「活力あるP
TA活動を目指して」をメインテー
マに、4校のPTAから研究発表が
ありました。

一 保護者対象アンケートからの考察 ～スマホ・携帯の 利用の仕方を通して～

桜井高校PTA
会長 伊東 敬祐

二 PTA活動への参加率 向上をめざして

富山工業高校PTA
会長 柳田 毅

三 子どもたちの健全育成の ためのPTA活動

小杉高校PTA
会長 小神 善行

四 家庭教育とPTA ～子どもの成長を支える 親と学校の連携～

となみ野高校PTA
会長 樋掛 昌代



全体討議では各
発表に対して活発
に質疑応答が行わ
れ、充実した討議
となりました。

その後、県教育
委員会生涯学習・
文化財室家庭成人
教育班の君波敦子
班長と砺波高校の
林 誠一校長から講評をいただきま
した。

君波班長は、「4校いずれの発表
も学校での子どもたちの様子をもち
と知り、PTAとして子どもたち
の成長のために協力できることを実
践していきたいという思いのもと、
保護者、学校、子どもたちが連携し、
無理なく、少しずつできるところか
らPTA活動の活性化を図ってい

こうという実践例であった。いずれ
の活動も親が学校行事に積極的に関
わり、子どもを理解し、ともに成長
していきたいという思いを強く感じ
た。また、PTAの皆様が楽しんで
活動しているものもあり、本日参加
の皆様には、これらの活動のアイデ
アやヒントを持ち帰り、今後のPT
A活動にいかしていただきたい。

高校生の保護者にとって、PTA
の組織や活動は、数少ない子育てに
関する相談・情報提供・交流の場と
して、大変意義があり、今後、PT
A活動の一層の活性化を期待してい
る。」と助言されました。

林校長は、「子どもたちは未曾有
の人口減少期という我々とは全く異
なる時代を生きている。全国学力調
査からは知識の定着度は高いが、そ
れを活用する力が不十分であるとの
結果が出ている。一方、新規採用に
あたって企業が重視している特質は、

①コミュニケーション能力、②主体性、
③協調性であり、これまで以上に重
視されてきている。先行き不透明な
世の中で子どもたちを「家庭で育て、
学校で鍛え、地域で磨く」ことがま
ず重要です。」と語った。本日の発
表もこの視点で行われていた。本会

もPTAが顔と顔をつきあわせる場
として非常に重要であり、今後も活
かしてほしい。」とまとめられました。
最後に記念講演があり、一般社団
法人全国高等学校PTA連合会顧問
で前会長の佐野元彦氏が、『社会総
がかり、地域総ぐるみの人財育成』
と題して講演されました。

記念講演

演題

「社会総がかり、地域ぐるみの人財育成」

講師

一般社団法人全国高等学校

P T A 連合会顧問(前会長)

佐野 元彦 氏



私は六月まで、全国高等学校P T A 連合会の会長を務めていました。就任した三年前は、高校教育が大きく揺れ動いていました。これまでもあまり話題にならなかった様々な課題を解決しようとす

る動きの中、高大接続システム改革や選挙年齢の引き下げ等にあたり、高校生の保護者代表として、文部科学省等から意見を求められました。本日はそこでの経験を踏まえて、私自身

1 激しく変化する社会状況

教育に限らず、これからの世の中を考えると、捉えておかなければいけない問題がいくつかあります。

一つは、日本全体が成長の時代から成熟の時代に、ステージが変わったということです。経済成長が進み、身の回りに物が溢れる現代では、みんなの共通の目標、つまり「均一の価値観」ではなく、「多様な価値観」が共存するようになっていきます。そのことを念頭に置き、成熟から成熟の時代へ繋ぐ、もしくは新たな価値を創造してい

く必要があります。

また、グローバル化も避けて通れない課題です。グローバル化の中で大切なのは、互いの相違性の理解、かつ自己のアイデンティティーの確立です。自分は何者なのかを知っていて初めて、他者との相違性が確認できるのです。

インターネット・SNSの普及も重要な社会の変化です。SNSを通じて、一人一人が主人公となり、自分のことを全世界に発信することができるようになりました。どういふものを発信するのか、発信してよいかを判断する力、人間としての品格が求められています。

このほかに、AI(人工知能)などのロボット技術との共存、人口減少や高齢化なども重要な課題です。

2 学校(高校・大学)教育の変化

昨年度、高大接続システム改革会議が行われました。背景にあるP I S A 調査は、暗記力ではなく、思考力・判断力をみるテストです。二〇一二年の調査で判明した日本の課題は、子どもたちの学びへの興味・意欲の低さと、自己肯定感の低さです。この結果を受け、学力の知識・技能だけでなく、学びへの興味・意欲や自己肯定感を高める対策が必要だということになりました。

会議では、学力の三つの定義の再確認に加え、「多面的な評価」が重視されました。「多面的な評価」とは、部活動や生徒会活動、ボランティア活動等、生徒一人一人の日頃の積み重ねを総合的に評価していくことです。これは後の大学入試の話にも関わってきます。

それから、指導方法の改善として出てきたのが、「アクティブ・ラーニング」、主体的・対話的で深い学びです。学びの定着がどのような活動によって高まるかを示した「ラーニングピラミッド」によると、「講義を受ける」では5%しか定着しないのに対し、「他

者と議論する」は50%、「実践による経験」75%、「人に教える」は90%も定着するといことがわかっていきます。こうした方法は小学校だけでなく、高校や大学の授業でも取り入れられてきていますが、重要なのはそれを定着させることと、保護者がこうした学校の授業方針を理解することです。

大学の教育改革も行われています。各大学は教育理念に基づいて、三つのポリシーを公表しています。各大学の方針を見比べて、子どもが今後どのように自己実現を図りたいのか、どのような人生を送りたいのかに合わせ、大学の選び方を話し合っしてほしいと思います。

大学入試改革では、二〇二〇年度から今のセンター試験に変わり、大学入学共通テストが導入されます。ポイントは記述式問題や英語四技能の外部検定の導入です。個別大学入試でも、一発勝負ではなく、過去の積み重ねを多面的に評価するという方向に変化しています。ただ、「多面的な評価」をもとに選抜するには多くの時間がかかるので、eポートフォリオやキャリアパスポートなどの電子データが活用されようとしています。入学者の経験や人間性を評価し、それぞれの大学の方針に合う人を選ぶという事です。

3 どのような人に未来を託すか

どのような人に未来を託したいかを考えたとき、やはり高い志を持った人に次の社会の主役になってもらいたいと思います。周囲の人や社会の役に立つことを自らの喜びとする、そういう姿勢を持ってほしい、それから、激しく変化する社会を生き抜く

力を身につけてほしいと思います。多くの選択肢が存在する場面において、自分で考えて判断する力、また、判断が間違っていない時に修正する力が必要です。そのもとになるのは教養です。教養に根差した深い人間性、これが一番大事です。

もう一つは、グローバルとローカルのバランスです。思考と視野はグローバルに、実践はローカルに。または、世界を舞台に動いているけれども、自分の立脚点、故郷への意識はきちんと持っている。このバランスが取れている人に未来を託したいと、私は思います。

4 未来を拓く人をいかに育むか

最後に、そういう未来を控えている人たちをいかに育んでいくかです。

一つ目はキャリア教育です。キャリア教育というのは、自分の役割の価値や自分との関係性を、生み出し育てていく教育です。ですから、キャリア教育は、一人一人の学びの中で最も大事なものではないかと思ひます。

子供達の有るべき育むためには、家庭や学校、地域で周りの人から褒められ、感謝される機会をたくさん作ってあげることが大事です。また、講話やインタビュによって、地域の方から仕事の意義や生き方を学ぶことも良い経験になります。

二つ目は、校内外での幅広い活動の中で、人間性を高めることです。テストの点数より、自制心や忍耐力といった「非認知能力」が、将来の年収や就業形態に影響していることが、研究からわかってきています。

三つ目は、ふるさとの課題に関わり、主催者としての社会参画意識を持つことです。実際に活動を行えば地域の方々にも認められるので、自己肯定感にも繋がります。

これらに共通して重要なのは、「ちよつと大人の経験」をさせてあげることです。また、社会総掛かりで取り組むことです。子供たちというのは社会からの、未来からの預かり物です。「家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く」と言いますが、P T A にC (コミュニティ社会)を加えたP T C A の力を合わせて、子供達を総掛かりで育てていくということが大切だと思います。

研究発表概要

「保護者対象アンケートの考察」

～スマホ・携帯の

利用の仕方を通して～

桜井高校PTA会長

伊東 敬祐

「チーム桜井」の一員として、学校と一絡にどのような協力ができるか、PTAとして何をすべきかの課題を共有し、組織で取り組む内容を検討することにした。

まず、学校改善のアンケートを分析し、保護者の学校に対する思いを知ることから始めた。その結果から、子供との会話を増やすことはできないか、子供は学校生活に適応しているのか、学校の様子をもっと知り、関わることはできないかと考えている保護者が多いことが分かった。

そこで、スマホ・携帯の普及が生徒の学習を阻害し、親子の会話がでない原因ではないかと想定し、再度アンケートを実施した。結果から、保護者と子供の使用についての認識の差が浮き彫りになり、この話題を足がかりとして、親子の会話を増やすことはできないかと考えた。

こうして、各家庭で親子の話し合いが増えるような将来のことや、職業観を養う機会の提供を目的に、様々な職業に携わっておられる方々との座談会を開催するに至った。手始めとして実施した企画だったが、家庭での親子の会話を増やす機会を提供できた。今後も、子供の学校の様子が分かるように保護者として協力できることを模索し続けていきたい。

生徒と学校、それにPTAの三者が一体となり子供の成長に関わり続けていければと考える。

「PTA活動への参加率

向上をめざして」

富山工業高校PTA会長

柳田 毅

富山工業高校では、PTA活動の周知が保護者全体に浸透しにくい、保護者同士のつながりが薄いという慢性的な課題を抱えていた。

それにより保護者のPTA活動への参加者が限られてしまい、校内の雰囲気や学校での生徒の活動の様子を知る機会や、活動に参加することによって得られる情報を逃してしまう状態が続いていた。

一人でも多くの保護者に、学校で行われていることを知ってもらい、学校に足を運んで様子を見ていただくことが大切だと考え、保護者の意見を伺い、PTA事業について改善を行った。

校外研修会の時期を全学年の保護者が参加しやすい時期に変更し、参加者が増加した。

生徒の実習授業の見学は、役員のみで実施したところ、子どもの真剣な姿が見られ好評だったことからPTA事業となつて参加者の増加が続いている。このような取り組みを重ねることによつて参加率が改善される結果が得られた。今後のさらなる改善策として学校ホームページを利用した情報を得やすい環境の整備も検討していきたい。

「子どもたちの健全育成の

ためのPTA活動」

小杉高校PTA会長

小神 善行

本校での「11-7運動」は、5年前に全校生徒を前に生徒会執行部とPTA役員が本音で語り合う「親子のカタリバ」がきっかけで始まった。その後、参加者をPTA役員と生徒会執行部に限定した「親子座談会」へと形を変えたが、ともにスマートフォンを使い方を巡つて保護者と生徒が直接意見交換をする取り組みであった。

こうした交流は、スマホへの時間を見直し、机に向かう時間に向けるため、生徒会執行部が提案した学習時間のクラス間競争「Battle on the desk」へと発展し、生徒の主體的な生活改善運動を生み出すこととなった。

小杉高校では、部活動への援助、授業公開の参観など、一保護者として学校の活動に関わる機会が多い。しかし、一個人としては学校に足を運びにくいものである。PTAという組織を生かし、学校に赴くことによつて、子どもを取り巻く環境の一端に触れられれば、より良い環境を作り出すことにも寄与できるのではないかと。その一つとして学校祭等の行事に協力することも考えられる。

学校に、より多くの保護者に足を運んでもらうこと、その上で保護者と教職員や保護者同士の絆を強くすることが、子どもたちの健全育成を図ることにつながるのではないかと考える。

「家庭教育とPTA」

～子どもの成長を支える

親と学校の連携～

となみ野高校PTA会長

樋掛 昌代

となみ野高校では、高校に足を運びPTA活動に参加することで高校が身近に感じられるよう、保護者には子どもの在学中に1回はPTA役員になっていたかどうかと、入学式直後に新入生の保護者に対して3年間の役員決めを実施している。

PTAによる主な活動としては、「授業参観・総会・年次懇談会」、「定期的交通安全運動・さわやか運動」、「学校林下草刈り・植樹活動」、「学校祭での模擬店」、年2回の「PTAだより」の発行等がある。

特に、学校林に関わる活動では、保護者・子ども・高校が一緒になって声をかけ合い、汗を流して達成感を味わえる貴重な体験活動になっている。

また、模擬店の合間に書いてもらう、「学校で頑張る我が子への応援メッセージ」は、子どもへの思いや伝えたいことを見つめ、考える機会にもなり、好評を得る活動になってきた。

今後のPTA活動も、親・子・高校の連携を深める架け橋としてアットホームな雰囲気大切に運営し、「となみ野に入学して社会と良好な関係を築けるようになった」と思ってもらえるよう、子ども達の成長を見守っていきたい。

11〜7運動実施状況



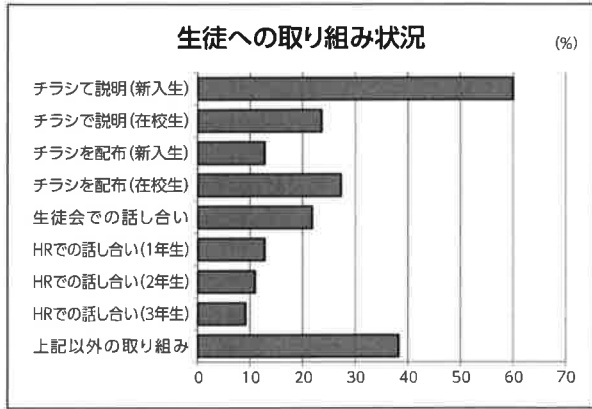
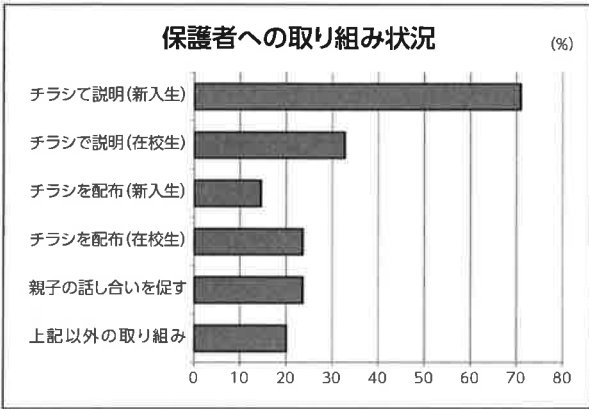
富山県高等学校PTA連合会では、平成27年度からイレブン・セブン運動（夜11時から翌朝7時までスマートフォンを使用しないよう家庭で話し合い、実行する運動）に取り組んでいます。今年度も、保護者用、生徒用チラシを作成・配布し、各校の新生入生をはじめとして、在校生、保護者へ周知していただきました。県高P連役員会では、6月及び10月開催の教育向上委員会の議題の一つとして、現状や今後の進め方等について協議しました。また、昨年度同様に、各校の取り組み状況調査を実施しました。

はじめに、調査結果について報告します。この調査は、平成29年10月に加盟高校・特別支援学校全校を対象に実施しました。

11〜7運動の周知を図るために各校で生徒や保護者に対して取り組んだことについて尋ねたところ、下のグラフの結果となりました。

新生入生及びその保護者への説明会の実施状況は、昨年度とほぼ同様ですが、今年度は、ホームルームや生

徒会での話し合いの機会を設ける取り組みを行う学校が昨年の倍以上と増えています。



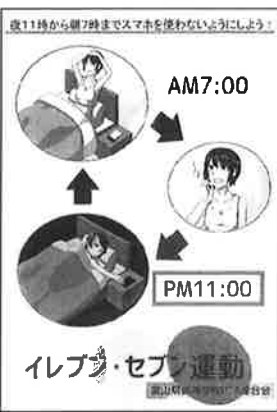
次に、富山県高等学校生徒指導推進研究委員会（高推研）が平成29年7月に実施したアンケート（対象：高校53校（私立を含む）の各学年1クラス、特別支援学校13校の高等部全クラス）結果について報告します。

11〜7運動の認知度調査では、県立学校（高P連加盟校）生徒の59%が知っていると答えています。これは、昨年度とほぼ同じ割合です。

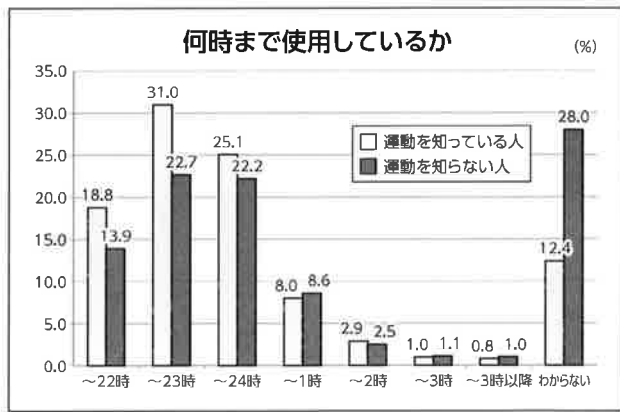
また、使用時間では、11〜7運動を知っている生徒は、知らない生徒に比べて、深夜に及ぶ使用の割合が少なくなっています。知っている生



また、その他の取り組みについて尋ねたところ、独自の使用時間の設定、校内ネットルールづくり、外部講師によるグループワーク、保護者・生徒・教員が参加しての意見交換会の開催などがありました。



11〜7運動は徐々に浸透し、生徒の意識は、高まってきたかと思いますが、インターネットやSNS等によるトラブルは後を絶たない状況です。県高P連として、今後も引き続き、11〜7運動推進に努めていきたいと考えていますのでご協力をお願いします。



徒の50%の使用時間帯が23時までとなっており、知らない生徒より13ポイント上回っています。

共学共育

富山総合支援学校PTA

「子供たちの豊かな成長を育むPTA活動を目指して」

本校のPTAは、会長1名、副会長4名、会計1名と事務局長1名の7名で執行部を構成し、今年度新たに前会長を相談役として役員に加え、PTA活動全体の企画・運営を行っています。PTA役員の選出に関しては、3年間に一度は役員を経験していただくこととすることで、入学式後に保護者に集まってもらい、各年次における役員を決めていただいています。

役員は、進路委員会、親睦委員会、広報委員会、厚生委員会のいずれかの委員会に所属しています。

進路委員会では、毎年、施設見学会を企画し、卒業後の進路先を考える機会を提供するなど、進路についての情報収集及び意識啓発に向けた活動を行っています。今年度は学校の進路指導部と共に市役所出前講座を企画しました。参加の保護者からは、福祉制度の活用等を詳しく知る機会になったという声が聞かれました。

親睦委員会では、地域やボランティアの方の協力を得て、里山保全活動と



施設見学会

して学校裏山の竹林整備とクラフト作りを行っています。また、ゲームや外部ゲストのステージを楽しみ、保護者と児童生徒、教職員が親睦を深める「ふれあい交流会」の企画・運営も行っていきます。



竹林整備

広報委員会では、PTA会報誌「ふよう」を年2回発行し、全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会や富山県高等学校PTA連合会等の参加報告、各委員会の取組や各行事の様子等を掲載し、保護者間での情報共有を行っています。

厚生委員会では、運動会と学習発表会でのお弁当等の販売を行っています。今年度は学校の創立50周年記念を祝い、「とみそう弁当」を販売して、大変好評をいただきました。このように富山総合支援学校PTAでは、保護者と学校が協力し合い、様々な委員会活動を活発に行っています。また、役員以外の保護者も協力員として可能な範囲でPTA活動に参加してもらっています。PTA活動により、保護者と学校が相互理解を深めることで、子供たちの豊かな成長が育まれていくと考えます。特に、本校は特別支援学校ということで、保護者と学校の緊密な連携が不可欠です。これからも子供の豊かな成長を願い、保護者と学校が互いに手を携え協力し合ってPTA活動を盛り上げていきたいと考えています。

富山総合支援学校PTA
会長 山本 謙二

高岡西高校PTA

「子供のため参加しやすい身近なPTAを目指して」

本校のPTAは会長1名、副会長4名、会計1名、監事3名、委員長4名にて「執行部会」を構成し、これに各学年より選出された役員を加えて運営しています。

組織構成は「文化教養委員会」「生活指導委員会」「部活動育成委員会」「広報委員会」の4つの委員会があり、各担当副会長と各委員長が中心となり事業を計画し実施しています。

今年度「文化教養委員会」は、PTA研修会として地元高岡の伝統工芸である鑄物の見学・体験を保護者と教職員を対象に企画し、27名の参加をいただきました。地元企業の「ものづくり」に取り組む情熱と歴史を感じながら、参加者同士の交流も深まり、実りある研修となりました。



PTA研修会

「生活指導委員会」では、「本校生徒のスマートフォン使用の実態について」をテーマにPTA研修会を開催しました。本校生徒に行ったアンケートをもとに学年別や男女別等で分析し、使用モラルやルール決めなど、子供たちの指導に役立つ目的で開催しました。SNSでのトラブルや危険性、ネット依存などに参加者が興味深いテーマに熱心に聞き入っていたのがとても印象的でした。

「部活動育成委員会」は、毎年5月に「部活動見学会」を開催しています。当日は文化部、運動部を順番に訪れ、日頃の練習風景や学校の施設などをこ

の機会に見学させてもらいます。間近に見る運動部の迫力や文化部の熱心さが伝わり、大変貴重な時間となりました。

また、「部活動育成」と「生活指導」の両委員会は、合同で「夏のさわやか運動」で、朝のあいさつ運動を行っています。朝、元気に挨拶することは、さわやかな気持ちになるとともに全ての基本と考えます。

「広報委員会」は学校行事や委員会の活動を取材、編集し、広報誌「からたち」を年2回の発行にて報告しています。より多くの保護者の方にPTA活動を紹介するとともに活動への参加を呼び掛け、PTA活動の活性化を推進しています。

そのほか、実社会で活躍する社会人が講師となり、進路に対する意識の高揚を図る「職業ガイダンス」の講師も、保護者が主体となって務める取り組みも行っています。

PTA活動の基本は、まず保護者が学校に足を運び、その目で生徒や学校の様子を見ることから始まります。そのためには学校が身近な存在となるよう、保護者が来校できる機会を増やし、保護者同士の交流の場を作るとともに、参加を呼びかけ促すことが大切だと思います。

本校では、様々な案内にHP等を活用して情報提供の充実を図ることに取り組みました。今後も保護者と学校が連携して、子供たちの成長をより支援できるようなアイデアを出し合い、共学共育できるような努力をしていきたいと思えます。



部活動見学会

高岡西高校PTA
会長 松谷 英樹

＊南砺福光高校PTA＊

「地域と共に光高生の豊かな成長を応援するPTA活動」

本校のPTAは、会長1名、副会長9名、監事2名、委員35名で構成される役員が中心となって活動をしていきます。委員は、総務、生徒指導、広報・国際交流のいずれかの委員会に所属します。

総務委員会は、研修や視察に関する活動をしています。大学視察研修は、春と秋の2回、石川方面と富山方面の大学等を南砺市の3高校が合同で訪問します。施設見学や「卒業生と語る会」などにより、親の立場で学校の雰囲気や学生生活を知る貴重な機会になっています。職業講座では、保護者だけでなく地域や卒業生の方々に講師を依頼し、職業に就くことの意義や体験を語ってもらい、職業観や勤労観を育んでいます。

生徒指導委員会では、ねつおくり七夕祭りやむぎや祭りの会場を巡視しています。毎年高校生の目立った行動は見られませんが、活動することで保護者の見守りをアピールしています。「秋のさわやか運動」では、地域の方や先生方、生徒たちと一緒にJR福光駅や生徒玄関で声かけをしています。



さわやか運動

広報・国際交流委員は、PTA広報誌「燦々」の発行と、国際交流に関する活動をしています。国際科の生徒は、2年時にオーストラリアで語学研修をします。その相互派遣交流で留学生が本校を訪れる際には、ホストファミリーとして協力しています。初めは不安だった保護者も、家庭で通訳としてポジティブに行動する我が子の成長に感動し、「楽しい思い出になった」と語られます。また、三年に一度の「光高祭」では「PTA福光うまいもん」と銘打ち地元菓子や惣菜を販売します。生徒や保護者が地元福光の名店を知る機会にもなっており、毎回たいへん好評です。



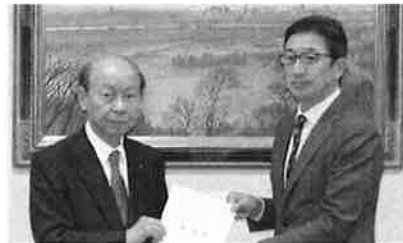
「光高祭」での販売

本校は、今年創立六十周年を迎えます。落ち着いた環境で小規模校のメリットを活かした手厚いサポートのもと、生徒は学習や部活動、学校行事に意欲的に取り組んでいます。またボランティア活動や文化学習活動も盛んで、全校を挙げて地域に向き、様々な交流を行っています。光高生一人一人の豊かな成長を支援し応援するPTA活動を、地域と共にこれからも続けてまいります。

南砺福光高校PTA
会長 吉田 貴浩

新年度教育関係予算の充実を知事に要望

1月22日に石坂会長と副会長4名が県庁に石井知事を訪ね、「時代の進展に即応した学校づくりの推進」「特別支援教育の充実」「高校生指導等の充実」「教員の資質向上」の4点を重点に県立学校の教育振興を要望しました。



また、ふるさと教育の充実や高大接続の制度改革に向けた教育現場での適切な対応、さらには教員の働き方改革などについても要望しました。

石井知事は、「子どもたちに富山への誇りと愛着を持ってもらえるように、富山県の魅力や良さを学校現場でも伝えていきたい。ICTの活用については、教員のスキルや指導力向上に向けた研修もしっかり推進したい。ネット上のトラブルも含めたいじめ問題については、学校ネットワークルールのづくりなど、生徒が自発的に防止するような取組みを進めたい。働き方改革については、教員の多忙化防止に向け、ベテラン教員や国の補助制度を活用していきたい。」などと回答されました。

平成29年度の主な事業

- 4月21日 28年度第4回理事会・北信越高P連大会第2回準備委員会
- 6月1日 定期総会第1回企画委員会兼理事会・北信越高P連大会第1回実行委員会
- 6月中下旬 各地区PTA指導者研修会
- 6月29日 北信越高P連大会第2回実行委員会
- 7月6日 北信越高P連大会第3回実行委員会
- 7月7・8日 北信越高P連研究大会富山大会
- 7月18日 第2回企画委員会
- 8月4日 臨時理事会
- 8月22日 北信越高P連大会第4回実行委員会
- 8月24・25日 第1回知事要望
- 9月21日 第1回知事要望
- 10月10日 第2回企画委員会
- 10月12・13日 第2回教育向上委員会
- 10月24日 東海北陸社会教育研究大会
- 10月25日 兼富山県社会教育大会
- 12月13日 県高P大会・指導者研修会
- 12月15日 県教委陳情
- 1月22日 第4回企画委員会
- 2月15日 第2回知事要望
- 第3回理事會
- 第4回企画委員会
- 第5回企画委員会
- 第3回理事會

編集後記

今年度も会員の皆さまには、北信越高会をはじめとして本連合会の事業にご理解、ご協力をいただきありがとうございました。さて、高大接続改革も間近に迫ってまいりました。また、SNSによる諸課題等も懸念され、県高P連としても、真摯に対応していかなければならないと思います。今後も、ご協力よろしく願っています。(事務局長 広井 睦)